

地球惑星科学委員会 地球惑星科学国際連携分科会  
INQUA小委員会(第24期・第3回)議事録

日時: 令和2年9月16日(水)16:00~17:00

場所 遠隔会議(主催会場: 島根大学エスチュアリー研究センター)

ZOOM 参加用 URL: <https://us02web.zoom.us/j/7293608863?pwd=R3NZZktlZEJnbFpRT1ZWbnk2N3VTZz09>

ミーティング ID: 729 360 8863

パスコード: 0eHE2r

【出席】(敬称略)

春山、小口、奥村、川幡、北里、久保、齋藤、佐藤、佃、原田、吾妻、: 計 11 名

【欠席】(敬称略)

諏訪、鈴木、松浦、: 計 3 名

オブザーバー: 出穂雅実

1. 前回議事録が承認された。
2. 前回議事録に関連して、出穂准教授の小委員会委員への手続きについては、次期の小委員会設置に合わせて行うことになることが齋藤委員長から報告された。
3. INQUA ダブリン大会関連報告  
齋藤委員長及び日本代表で出席した出穂准教授から会議の概要が報告された。INQUAの各コミッションへの日本からの参加は、HABCOM副委員長に出穂雅実、アドバイザーボードには、CMP に横山祐典、PALCOM に阿部彩子、HABCOMに小野昭、SACCOM に菅沼悠介、岡田誠が就任した。Honorary Life Fellow には7名が選ばれ、日本から推薦した熊井久雄名誉教授が選ばれた、次の開催地は、イタリアのローマとインドのラクナウが立候補し、投票の結果、ローマに決定した。  
INQUAの執行部関係では、副会長が欠員であったが、南アフリカのLynne Quickが、大会後に決定した。また、INQUAの機関誌であるQuaternary Internationalの編集長は、中国のJule Xiaoに交代となったことが報告された。
4. 国際層序委員会第四紀層序小委員会関係  
チバニアンが2020年1月に決定し、関連する国内シンポジウムを日本学術会議 IUGS 分科会が中心で企画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて取りやめとなった。第25期での活動として引き継がれることになる。国際層序委員会関係では、第四紀層序小委員会の役員が交代になり、今後は人新世(人類世)と後期更新世を主対象として作業グループで議論されることになる。  
国内では、来年2-3月に人新世のシンポジウムが東大大気海洋研で企画されている。
5. ASQUA 2021  
INQUA 大会の中間年に開催されている ASQUA(アジア第四紀研究学会)の次の開催は、2021年に北京で予定されている。新型コロナウイルス感染症の状況を見て、2020年12月にホストである Xiao 教授が判断すると連絡が届いている。
6. 25期への引継ぎ事項、その他

INQUA 関係:INQUA の予算関係では、各コミッションから 10 月 15 日締め切りで予算申請の公募が行われるはずであるが、IFG, Project など4つの構成そのものの議論が現在行われており、公募は予定通り行われるかどうかは未定である。

IAG(国際地形学会議)との連携では、次回の INQUA 大会(ローマ)での連携、アジア地域における連携などについて模索することになった。

台湾の第四紀研究委員会の次期代表である River Shen 教授と齋藤委員長が INQUA ダブリン大会で会合を設けて、台湾から提案のあった交流に関して協議し、第四紀研究全体ではなく、まずは個別のテーマで交流することになった。JpGU2020 大会で合同セッションを開催し、国際学術誌からの特集号を準備中である。

SDGs に関連して、アジアにおける Urban Geology など第四紀研究においても関連するテーマは多い。これらについては、他の学協会などと連携した活動を検討する必要がある。

第 25 期では、期間中に次回の INQUA 大会(ローマ)が開催される。上記に加えて、次期大会に向けての対応が主要な活動となる。

7. 議事録の承認については、次回の開催時での承認ができないため、委員間でメール回覧の後、委員長に一任することとなった。